

令和8年度 第1回京都市木の文化・森林政策推進本部会議（令和8年5月15日）

本部長（岡田副市長）指示

木の文化・森林政策推進本部の設置から5年が経過した。京都市では長年、森林政策に取り組み、一定の成果はあったものの、林業の衰退にストップをかけられたかと言えば、決してそうとは言えない。これまでの取り組みを否定するわけではないが、成果という点では、残念ながら大きな効果は上げられていないと冷静に認識している。

京都の木の文化をしっかりと守り、林業を振興していくためには、これまでの政策をそのまま続けるだけでは難しいだろうというのが我々の出発点である。従来とは異なる意識を持ち、新たな取り組みを行う必要がある。皆様の尽力により成果も出始めているが、気持ちを新たに、新しくメンバーになっていただいた方々と共に頑張っていたきたい。

今まさに、基本構想ができ、松井市長の下での新京都戦略の改定版が策定されたところである。京都は歴史と文化を大切に守り発展してきた町であり、自然と共生し、その恵みを受けて暮らしてきたというまち柄である。森林や木の文化を守ることは、これらを達成するための重要な政策であると思っている。

令和7年度の事業やこれまでの取組や成果については資料に記載したとおりだが、指標の捉え方について一点確認いただきたい。参加人数や開催回数といった数値は個々の事業の進捗を図る指標にはなるが、本部の最終目的を図る指標ではない。真の目標は、その先にある木材需要の拡大、林業産出額の増加、人材育成、森林に関心をもつ人口の増加、後継者の育成、木の文化の育成、あるいは森林が持つ災害防止や温暖化対策といった多面的な機能の向上である。個別の事業評価も大切だが、目的と手段を混同せず、その先にある本来の目標を見失わないよう取り組んでほしい。

その上で、皆さんに求めたいことが2点ある。

一つ目は「理想を追いかけること」である。これから先の森林のこと、京都の自然のこと、人々の暮らしのことを考え、事業・部署を統括されていると思うが、それぞれの事業の中でその理想に向かいながら、森林行政についてもどう取り組んでいけるのか、複数の目的を同時に追求できるような取り組みを模索してもらいたい。担当する部署の枠組みにとらわれず、一度理想を考えてみてほしい。

二つ目は「果敢に挑戦すること」である。これまでから「失敗を恐れず挑戦を」と伝えてきたが、予算や人手といった制約があるのも現実である。しかし、それについては市長や私も力を尽くしたいと考えているため、ぜひ思い切った挑戦をしていただきたい。

これらを本来業務との同時解決、同時推進を図っていただきたい。新たな気持ちで皆さんと共に力を尽くして取り組んでいく所存である。